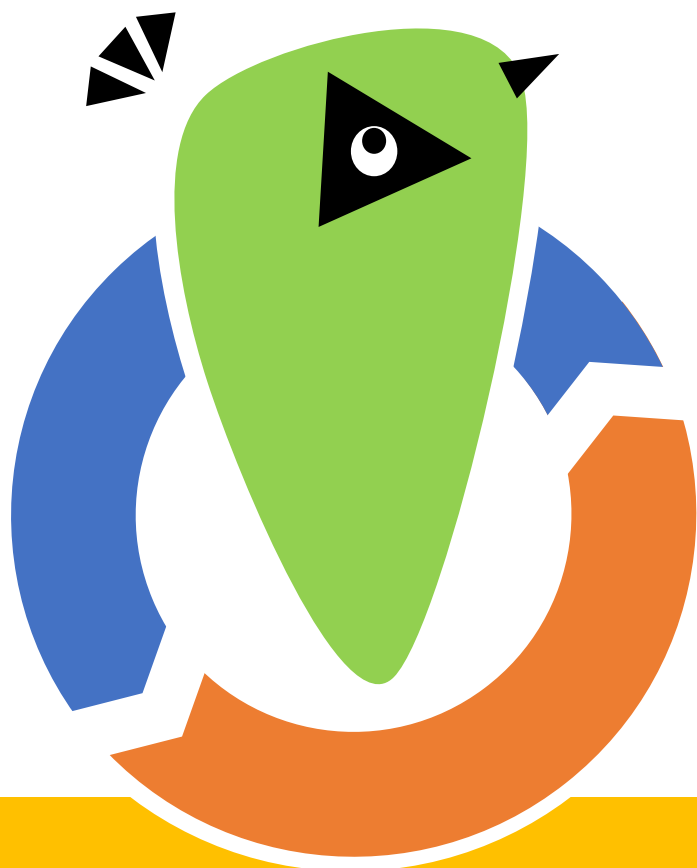


スイッチおがさわらライフ ゼロカーボン大作戦

2024 ▶ 2030

小笠原村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

【概要版】



令和6年3月 小笠原村

あなたは、2050年の小笠原村はどんな島だと思いますか？
これからはじまるお話は、「ゼロカーボンの島」を実現した2050年の未来の村民たちが、昔（2023年～）をふりかえって話している内容です。

あくまでも想像の話ですが、
世界の環境がよくなるとともに、村の暮らしがより良くなった！と、
喜びあえる日がくることを思い描いています。

村民や、村にかかわる一人ひとりの行動が未来を変えます。
私たち自身の未来を想像しながら、お話を聞いてみましょう。

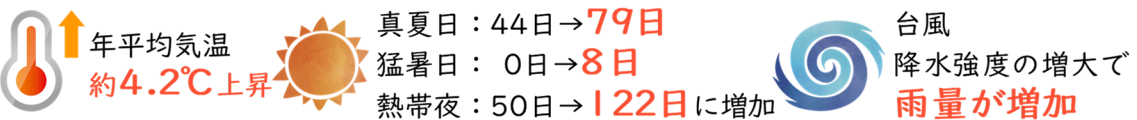
ここは2050年の小笠原村。中学1年生のマルオとハチコは、環境学習の課題で「小笠原村の温暖化対策の歴史」について調べてクラスで発表することになりました。
まずは図書館で、小笠原村で温暖化対策に取り組みはじめた2023年頃のことを調べてみることに。
そこには、地球温暖化どころか「地球沸騰の時代」とも言われる危機的な状況がありました。

地球温暖化の影響と将来予測

1850年から2020年で、世界の平均気温は約1℃上昇しました。たった1℃の上昇ですが、世界各地で台風の強大化、大雨による洪水などの異常気象が相次いで発生しており、これらは地球温暖化の影響と言われています。

このままでは、最悪の場合、2100年には5.7℃の気温上昇が予測されています。

小笠原村でも年平均気温の上昇、真夏日等の増加、海水面の上昇などの変化が起こると予測されています。2100年ごろの小笠原村は現在※よりも…



といった影響が予測されています。

※現在は2010～2019年、将来は2086～2095年の10年間の平均値で比較。
出典：東京都気候変動適応計画（令和3年3月）



マルオ

こんなことになったら大変だ！
でも、まだ2050年だけど、未来の小笠原村がこんなことになるなんて聞いたことないよ。それに、この間の授業で小笠原村は「ゼロカーボンの島」だって習ったよね？

地球温暖化は解決したのかな？

ねえ、こっちの本には、小笠原村で2024年から「ゼロカーボン大作戦」が始まったと書いてあるよ。
どんな取り組みをしてきたのか、村の大人たちに聞いてみようよ！



ハチコ

こうしてマルオとハチコは村の大人たちへのインタビューを開始しました。

作戦Ⅰ：みんなで取り組む脱炭素



一美

ゼロカーボン大作戦をはじめた頃のことについて知りたい？
あの頃、私はあなたたちと同じ中学生で、地球温暖化のことはニュースで見っていたけど、あまり気にしたことはなかったかな。
自分の暮らしとは関係ないと思っていたのよね。節電とか節水とか、なんとなく我慢しなきゃいけない感じがしたし、自分一人だけが頑張っても状況は変わらないんじゃないかと思っていたのが正直なところかな。まわりの人もそんなことを言っていたわ。

あまり乗り気じゃなかったのに、どうして温暖化対策に取り組もうと思ったの？



私の場合は、学校での授業かな。ゼロカーボンのためにできることを考えたりして、一人ひとりの小さな行動の積み重ねが大切だって気づいたの。
学校以外の勉強会やワークショップで、温暖化の最新情報や脱炭素の取組みを学んでいるうちに、自分でできることを選んで実践するようになったのよね。それにね、脱炭素につながる取組みって、意外と家計にもお得なことが多いのよ。

温暖化について知る機会がととも増えたんだね。
家計にもお得ってどういうこと？



あの頃は、1家庭に1台以上の車を持っている人もいて、維持費もかかるし、駐車場も不足していたの。でも、短い距離なら車を使わなくてもいいのかも？と気が付いて、最初は仕事や学校へ行くときに、歩いたり、自転車を使ったりすることから始めたの。遠出するときは、みんなで声をかけあって乗り合ったり、エコドライブを心がけて移動するようになったのよ。ガソリン代は浮いたし、車もそんな何台も要らなくなったわ。



うちには車がないけど、車が必要なときはカーシェアリングしているよ！



我が家も同じよ。カーシェアリングってとても便利よね。車を持たないことで、家計に余裕ができた家庭は多いんじゃないかしら。
小笠原は「世界遺産の島」だけでなく「ゼロカーボンの島」としても知られるようになって、島ならではの脱炭素型の暮らしを体験することも、観光資源の1つになっているの。これってすごいことよね！

作戦2：島ぐらし楽しく快適に脱炭素



二郎

ボクが君たちと同じ中学生の頃は、世間では太陽光発電と省エネ技術を組み合わせて、エネルギーの使用量を実質ゼロにする家（ZEH）が推奨されていたけれど、村ではまだ住宅の省エネ化があまり進んでいなかったんだ。だから、蒸し暑い夏は、エアコンや除湿機が欠かせなかったんだ。電気代が高くなっていったから、家計の負担になっていたね。それにガソリン代がすごく高くなっていったけど、みんなまだガソリン車に乗っていたね。

今と全然違うね。
家でも学校でもエアコンはほとんど使ったことがないよ。



今では村のほとんどの建物はエネルギー効率が良くなって、エアコンを使わなくても快適に過ごすことができるようになったんだ。今はすべて再生可能エネルギーを取り入れているから、エネルギー消費実質ゼロが実現しているんだよ。電気や水を大切に使うだけではなくて、省エネ性能の高い電化製品に買い替えることで、光熱費もほとんどかからなくなっているんだ。

過ごしやすいただけじゃなくて、エネルギーの使用量も減らすことができたんだね。
乗り物はどうなったの？



もちろん、主流は電動車※1だよ！
父島にも母島にも、再生可能エネルギー由来の充電施設があるから、いつでも充電できるんだ。
昔はあんなに高かった燃料代も安く抑えることができるようになったんだ。
まあ、奥さんの方針でうちには車はないんだけどね。

最新技術を取り入れているのは家や車だけじゃないぞ。
船舶も省エネ化や再生可能エネルギー導入の技術開発が進んで、最近では再生可能エネルギーで動く次世代燃料船の導入が進んでいるんだ！

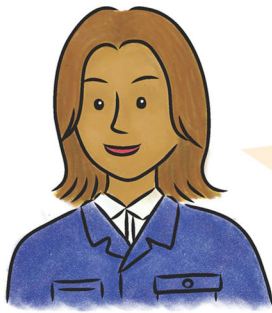


限りある資源を大切にしながら、省エネや再生可能エネルギーの新しい技術を積極的に取り入れることで、快適な島ぐらしができるようになったんだね！



※1 電動車：動力源に電気を使う自動車の総称。電気自動車（EV）のほかにハイブリッド車（HV）、プラグインハイブリッド車（PHV）、燃料電池車（FCV）がある。ガソリン車に比べてCO₂排出量が少ない。

作戦3：自然パワーで脱炭素



三太

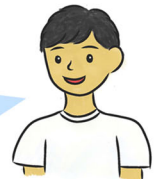
昔は、村で使用するエネルギーのほとんどは、本土から輸送した燃料で賄われていたんだよ。
特に、電力は石油系の燃料を燃やして火力発電で作っていたから、温室効果ガスをたくさん排出していたんだ。
もし大規模な災害が発生して本土からの燃料供給が途絶えたら、電気も使えないし、自動車の給油もできないといった不安もあった。本土からの供給がなくても利用できるのが再生可能エネルギーだけど、当時の再生可能エネルギー導入率はたった2%で、再エネ発電設備を設置・メンテナンスする人材も十分ではなかったから、なかなか導入が進まなかったんだ。

今では全て再生可能エネルギーが取り入れられているよね。
わたしの家には、太陽光発電がついているから停電もしないし、普段は電動車の充電にも使えて便利だよ！



きっかけは、母島に太陽光発電所ができたことかな。公共施設や住宅に少しずつ太陽光発電が増えていったんだ。
今では、太陽光をはじめとした自然の力や最新技術を効率的に組み合わせて、村の電力は100%再生可能エネルギーで供給されているんだよ。
化石燃料を使わずにエネルギーの自立を実現しているんだ！

お兄さんは再エネ発電設備のメンテナンスの仕事をしているんだよね？

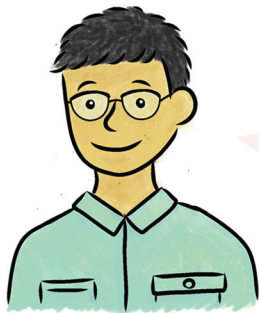


そうだよ。村の再生可能エネルギーの導入量が増えていったことで、再エネ発電設備の施工やメンテナンスの仕事が増えたんだ。
ぼくは、本土の大学に通った後、村で働きたかったから資格をとって、戻ってきたんだよ。

再生可能エネルギーは自然の力だから、昔よりも毎日の天気を気にするようになったし、太陽や風の恵みを感じるようになった気がするよ。
子どもの頃から海や森や生き物たちを身近に感じていたけれど、エネルギーのこともこんなに身近に感じる日が来るとは思っていなかったな。
島で仕事ができ、波のある日は趣味のサーフィンにも行ける。充実した毎日だよ！



作戦4：ごみも資源だ脱炭素



四之助

村のごみ処理の歴史について知りたい？もちろん、何でも答えるよ！
2023年頃、村では、できる限りの分別をしたりして、ごみの減量に取り組んでいたけれど、つい手軽な使い捨て商品を買ってしまって、ごみの量がなかなか減らせていなかったんだ。
リサイクル率は全国平均よりも高かったけれど、ごみの資源化には手間やコストがかかってしまうから、当時の方法のまま、リサイクル率を上げるのは難しい状況だったんだ。
それに、リサイクルできなかったごみは燃やして処理をするから、温室効果ガスも排出されていたんだ。

図書館の本には、2023年度までにリサイクル率50%を目標にしていたけど、2021年度は31.4%で、なかなか達成できなかったって書いてあったよ。ごみを減らすことって難しいんだね。



そうだね。そこで、なんとかしようと、みんなでごみの処理や分別、回収の方法を見直したんだ。最初は面倒だと感じる人もいたけれど、ごみも分別すれば資源になることをきちんと伝えることで、今では、すべての村民が丁寧に分別・リサイクルを実践しているんだ。自然と無駄な買い物も減ったね。

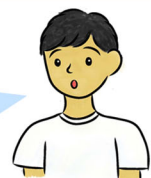


今では当たり前なのに、私たちが生まれる前は違ったんだね。そういえば、この間、お父さんと一緒に近所のおばあさんのお家のごみの片付けをお手伝いしたよ。



実は、ごみの分別・回収ルールを変えたことで、一番驚いた変化は、まさにその地域での助け合いなんだ。ごみを運ぶときの助け合いなんかが、子どもからお年寄りまで、村民同士の交流にもつながっているんだ。
それに、今では生ごみはコンポストを使ったりして、島内で処理されているけれど、2023年頃は、父島の生ごみはまだ燃料を使って燃やしていたんだよね。

そうなんだ！生ごみって水分が多いから燃やすのが大変そうだね。



こうした取組みを通して、村の人々のモノの買い方や使い方、暮らしの価値観がどんどん変化していった、ごみも資源だという考え方は、島で暮らす人々にとって、当たり前のことになったんだ。
こうやって振り返ってみると、本当に変化があったね。

作戦5：脱炭素型エコツーで満喫



五月

村の脱炭素型エコツーリズムに着目するとは、あなたたち優秀ね！
私が生まれた1988年に母島でホエールウォッチングが開催されたのよ。
この頃から、村はエコツーリズムの先進地だし、観光業は主要産業の1つ
よね。私も世界遺産登録前から観光ガイドの仕事が続けてきたのよ。
でも昔は、観光客にとっては不便なことも多かったわね。
公共交通を利用したいと思っても、父島に1日10本程度の村営バスくらい
しかなかったのよ？
それに、特産品として魅力ある野菜や魚などがたくさんあるけど、島内で
消費する食料品の多くが本土から輸送されたものだったのよ。

当時はそうだったんだね。
村のエコツーリズムに、どんな風に脱炭素型のツーリズムが加わっていったの？



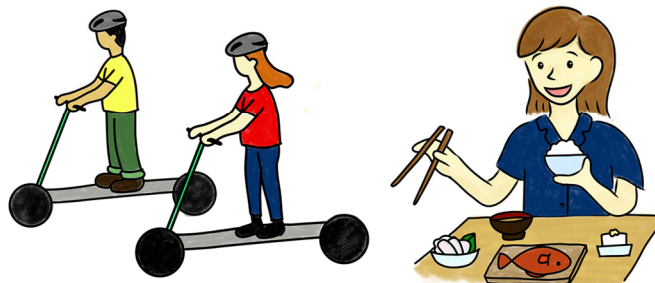
住宅や事務所と同じように、自然の力と最新の省エネ技術を組み合わせた宿が
どんどん増えて、客室でとても快適に過ごせるようになったわ！
アメニティやカトラリーも使い捨てのプラスチックの代わりに、リユースできる素材
や島で伐採した外来樹木で作られたものが使われていて、おもてなしと脱炭素を
両立しているの！

脱プラスチックを進めてきただけじゃなくて、外来樹木も使っているなんて、島ならではだね！



それに、電動アシスト付き自転車や電動キックボードなどのパーソナルモビリティ※2
が充実して、多くの観光客が小笠原の美しい風景を楽しみながら、エコで手軽に、
そしてマイペースに移動できるようにもなったわね。
宿や飲食店でも、ほとんどのメニューに島の野菜や果物、水産物が取り入れられる
ようになって、商店にもいろいろな食材や加工品が売られているから、お土産に
買って帰る人も増えているのよ。今では村民もほとんど島の食材を食べるよう
になったから、農業や漁業を仕事にする人も増えて、村の第一次産業はますます盛り
上がっているわね！

豊かな自然に囲まれて、ゼロカーボンの島暮らしを体感することは、観光客
にとって、自分自身の生活を見つめ直すきっかけにもなっているの。
脱炭素型エコツーリズムの魅力は体験してみるのが一番ね！



※2 パーソナルモビリティ：電動アシスト付き自転車、電動キックボード、セグウェイ、電動車いすなど、近距離移動に適した乗り物のこと。若者の手軽な移動手段としてはもちろん、高齢者や身体の不自由な方、子育て世代の移動支援、過疎地における交通手段、さらには環境負荷の低減など、さまざまな社会課題を解決するアイテムとしても注目されている。

作戦6：守れ BONIN の森と海



源六

2011年に小笠原諸島が世界自然遺産に登録されたことは二人とも知っているね？

遺産登録はされたけど、この世界遺産の価値を維持しないとイケない。それで、さまざまな保全対策事業を行い、さらに、村民参加での外来種駆除や森づくりなどの活動を何年も続けて、少しずつその成果が出始めた頃...。そう、あれは2023年ごろだったかな、大型の台風や集中豪雨や干ばつの被害を伝えるニュースが増えたんだよ。外来種の脅威に加えて、今度は気候変動の影響で固有の生き物たちの生息環境が脅かされる可能性が出てきたんだ。

せっかくみんなのおかげで良くなってきたところだったのに...。それに台風なんて僕たちにはどうすることもできないよ。



そうだね。たしかに人間は自然の力にはどうしても敵わないこともある。けれど、森と海は、とても大切な宝物だったから、地球温暖化を食い止めるためにゼロカーボン大作戦に取り組んだし、自然保全活動も続けたんだ。

今では、外来種の駆除活動は村民だけではなく、観光客も協力してくれるようになって、活動を通じて、村民と観光客の交流も広がっているんだよ。

それで地球温暖化はどうなったの？解決したの？



小笠原村だけではなく日本全国、そして世界中の人々の取り組みで、地球温暖化の進行は、過去の予測よりも低く抑えることができていますよ。

森林には二酸化炭素を吸収する機能もあって、伐採した外来樹木はチップや薪、材木などの資源として村内で有効活用されていて、循環の仕組みができています。島内のクリエイターたちが外来樹木から作ったグッズは、お土産としても、とても人気があるんだよ。

これまで外来種の侵入を防ぐなどの対策をずっと続けてきたことで、在来種を中心とした豊かな森や青くて美しい海の生き活きとしたサンゴ礁が今も維持されているんだよ。君たちのような若者には、これからもこの素晴らしい自然環境をぜひ守り続けて、次世代に引き継いでいてもらいたいね。よろしく頼んだよ！



計画の基本的事項

計画書p.10～12

■ゼロカーボン大作戦とは？

本計画は、地球温暖化対策の推進に関する法律第21条に基づく「地方公共団体実行計画(区域施策編)」です。その区域の自然的社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出量削減等を推進するための総合的な計画です。上位計画である「小笠原村総合計画」及び関連計画との整合を図っています。

【計画期間】 2024年4月～2031年3月

【対象区域】 小笠原村全域(村の温室効果ガスの排出量削減等に係る施策が及ばない硫黄島、南鳥島、沖ノ鳥島を除く)

地球温暖化対策に関わる小笠原村の地域特性

計画書p.13～16

小笠原村は、超遠隔離島という立地であることから、多くの基礎自治体とは異なる地域特性があります。地球温暖化に特に関連する主な自然的・社会的条件は次の通りです。

小笠原村の暮らし



- 小笠原村の約2,600人、約1,500世帯の暮らし方が本計画の取組みの主な対象となります。
- 輸送コストや人材確保が難しいなど離島ならではの特殊事情もあり、新しい施設や技術の導入には新たな発想も取り入れた取組みの検討が必要です。
- 移動に関しては、自動車やバイク、船舶、村営バスが主な検討対象となります。

小笠原村のエネルギー



- 現況では多くのエネルギーを地域外に依存しています。
- 災害時などの備えとして、できるだけエネルギー自給率を高める必要があります。

小笠原村の再生可能エネルギーポテンシャル



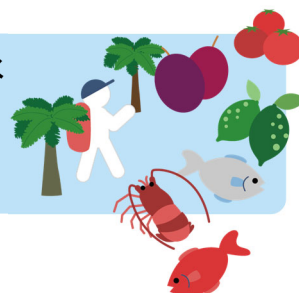
- 再生可能エネルギーポテンシャルとしては、現況では太陽光発電が大きいといえます。
- 再生可能エネルギー導入にあたり、自然災害への対策や生態系への配慮が求められます。

小笠原村の廃棄物



- 可燃ごみはすべて島内(父島)において焼却処分しています。
- 一部リサイクルを進めていますが、運搬コスト等の課題も多く、まだリサイクル回収が進められていない資源もあります。

小笠原村の産業



- 毎年、多くの観光客が訪れることから、この受け入れにも多くの電気や水などを使用していると考えられます。
- 小笠原村の各産業の発展を前提とし、温室効果ガス排出量の削減を検討していく必要があります。

■小笠原村の温室効果ガス排出量はどれくらい？

小笠原村に輸送される化石燃料や販売される電力量などの統計データ等を用いて、過去10年分の温室効果ガス排出量を推計した結果、2022年度の小笠原村の温室効果ガス排出量は約17,553 tCO₂です。この10年間で増減はあったものの、2013年度と比較して減少しています。

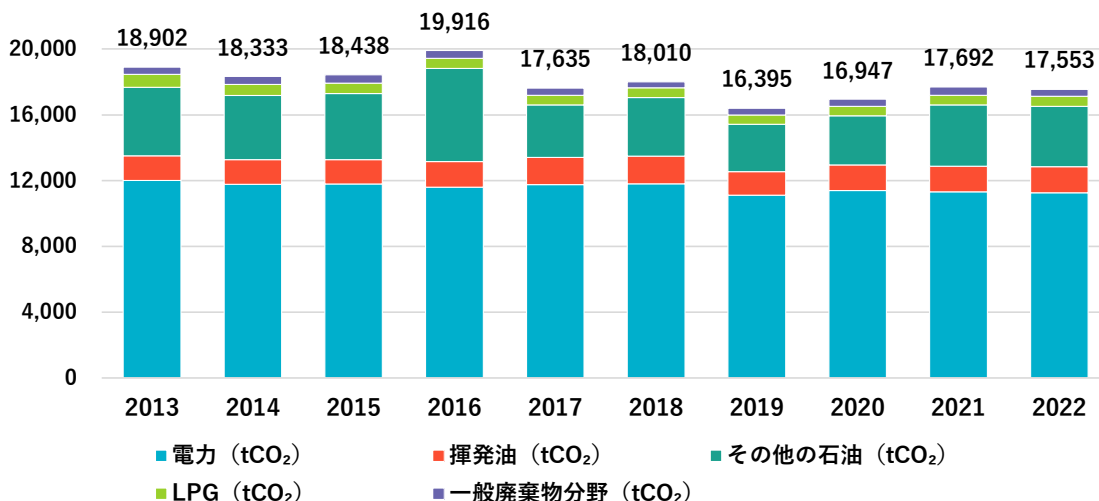


図1 小笠原村の温室効果ガス排出量の推計結果

■小笠原村ではどんなことにどれくらいエネルギーが使われている？

エネルギー供給者へ聞き取り調査を行い、2022年度の小笠原村のエネルギーの使用状況について詳細に把握しました。調査の結果、エネルギー別では電力、部門別では家庭等による排出が多くなっています。

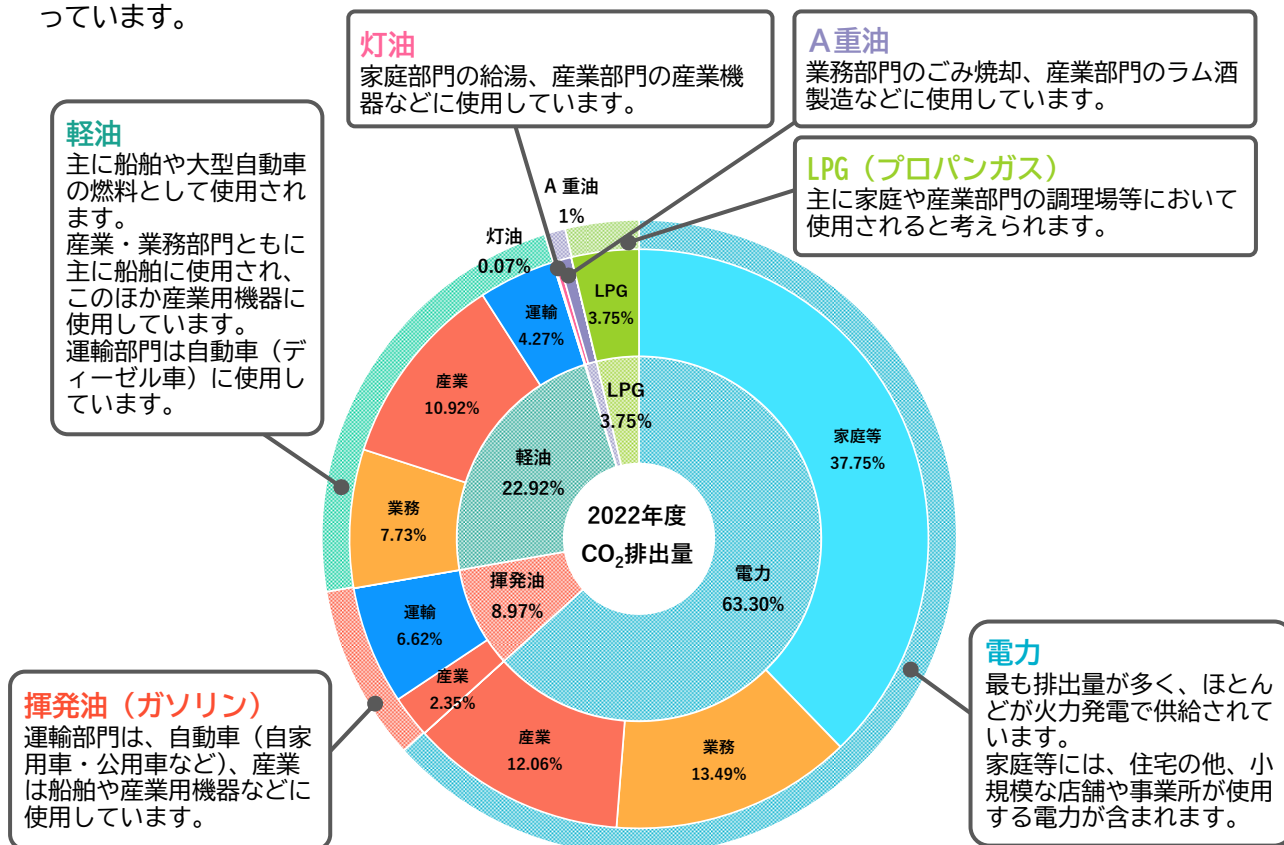


図2 エネルギー別・部門別の二酸化炭素排出割合(2022年度)

計画の推進にあたっては、以下のビジョンのもと、取組みを展開していきます。

SWITCH おがさわライフ！ゼロカーボン大作戦

小笠原村では、持続可能な社会（**S**ustainability）と
 村民の幸せで快適な生活（**W**ell-being）を両立できるよう
 最新技術（**I**nnovation）を取り入れながら
 個人の意識から社会全体までの変革（**T**ransformation）を促していきます。
 この変革は、村民一人ひとりの協力（**C**ollaboration）によって支えられ
 先人から受け継いできた自然という遺産（**H**eritage）を守りながら
 次世代へと大切に受け渡していくためのものです。

この「**SWITCH**」ビジョンを通じて、小笠原村全体にスイッチが入り、
 小笠原村は温暖化対策の先進的な地域に「切り替わって」いきます！

削減目標

2030年に基準年比(2013年度比)46%削減、長期的には2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指します！

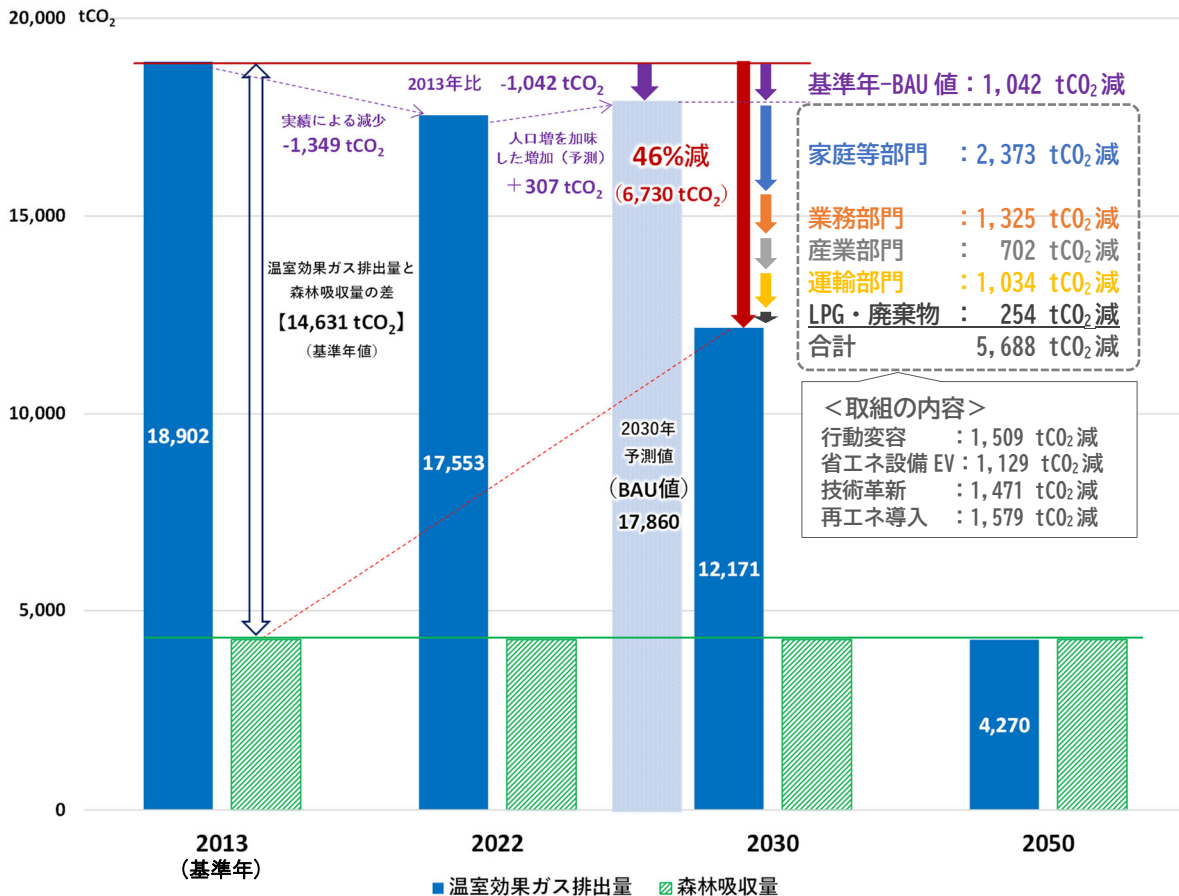


図3 温室効果ガス排出量の削減目標

「ゼロカーボン大作戦」として、6つの作戦ごとに具体的な今後の取組みを進めていきます。



本計画のビジョン

スイッチ おがさわらライフ ゼロカーボン大作戦

作戦1
みんなで取り組む脱炭素

- ①ゼロカーボンに関する情報発信(村民)
- ②移動の脱炭素化の推進
- ③ゼロカーボンに関する観光客への情報発信

作戦2
島ぐらし楽しく快適に脱炭素

- ①省エネ機器・省エネ建築物への転換促進
- ②公共施設の省エネ・長寿命化の推進
- ③船舶における脱炭素化に関する情報収集
- ④日々の移動における脱炭素化の促進
- ⑤公用車・村営バスのEV化

作戦3
自然パワーで脱炭素

- ①公共施設への再生可能エネルギーの率先導入
- ②住宅・事業所への太陽光発電の導入支援
- ③太陽光発電設備等の設計・施工及びメンテナンス体制の強化
- ④太陽光発電所等の再生可能エネルギー整備・運用の推進
- ⑤再生可能エネルギーの最新技術に関する情報収集

作戦4
ごみも資源だ脱炭素

- ①ごみの減量化
- ②プラスチック等の資源循環
- ③生ごみ回収の推進
- ④伐採木等の有効活用に関する情報収集

作戦5
脱炭素型エコツーで満喫

- ①脱炭素型島内交通の充実
- ②観光サービス業における環境配慮型経営の促進
- ③地産地消の促進

作戦6
守れBONINの森と海

- ①世界自然遺産である自然環境の保全
- ②地域連携による自然保全活動の推進

作戦を進めるにあたっての基本的考え方

- 小笠原村の「ゼロカーボンシティ」実現を目指し、地球温暖化対策の取組みをより一層加速させていくためには、村民、事業者、来島者、行政が一体となって取り組む必要があります。
- そのため、「ゼロカーボン」「脱炭素」「気候変動」等に関する村民・事業者向けの情報発信や子ども向けの環境教育を強化・充実していくことで、脱炭素型ライフスタイル及び事業活動への転換を促します。また、小笠原村を訪れる観光客に対してもゼロカーボンに関する取組みを周知することで、小笠原村の温室効果ガス排出量の低減を図ります。

- ゼロカーボンシティの実現には、無駄遣いをしないことはもちろん大切ですが、日々の暮らしや事業活動において温室効果ガスを排出しないもの・排出しにくいものを選択し、暮らしの快適性を高めながら脱炭素型のライフスタイルや事業活動に転換していく必要があります。
- そのため、省エネルギー性能の高い機器・設備や建築物等を積極的に取り入れるとともに、船舶や自動車における脱炭素化を推進していきます。

- 化石燃料から脱却し、自然の力を利用した再生可能エネルギーへと転換していくため、太陽光発電を主とした再生可能エネルギーの導入を推進します。
- 再生可能エネルギーの導入により、エネルギー自給率を高めることで、自然災害による電力供給への影響を抑え、防災力やレジリエンスの強化に貢献します。
- 一方で離島のため導入にあたり設置や維持管理コストが高い等の課題もあることから、民間事業者と連携するなど、できるだけ効果的な導入を検討することや、現在、さまざまな技術が研究・実用化していることから、小笠原村に適した最新技術の開発動向を注視していきます。

- 温室効果ガスには、エネルギー起源の温室効果ガスに加え、一般廃棄物処理に伴う温室効果ガスの排出があることから、廃棄物処理分野の脱炭素化を推進します。
- 可燃ごみの燃焼に伴う温室効果ガスの排出削減を図るため、ごみの減量化や生ごみ回収の推進、プラスチック等の資源循環を進めていきます。
- 汚泥や枝葉などの廃棄物の有効活用を図るため、リサイクル・活用方法について情報収集を行います。

- 小笠原村は国立公園・世界自然遺産であり、その主要産業の一つは観光業です。そのため、観光におけるゼロカーボン(脱炭素型ツーリズム)の推進は重要といえます。
- 脱炭素型ツーリズムを推進するため、島内交通の脱炭素化を図るとともに、観光サービス業における環境配慮型経営の促進及び地産地消の促進を行います。

- 小笠原村において「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を実現していくためには、二酸化炭素の排出量を抜本的に削減していくことに加え、森林等が有する二酸化炭素の吸収機能を維持していく必要があります。
- 村民や地域団体と連携しながら、森林等の自然環境の保全に取り組めます。

地域脱炭素ロードマップ計画

計画書p.43

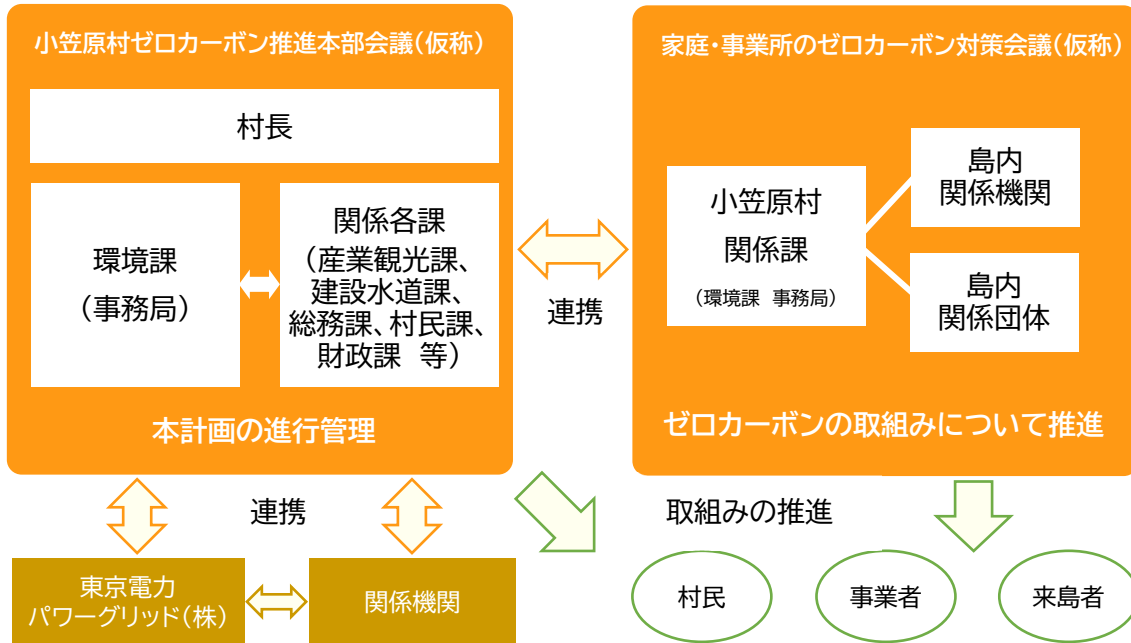
ゼロカーボン実現のため、短期・中期・長期の3段階で、戦略的に地域脱炭素に取り組みます。

作戦	取組み	短期 (~2030年)	中期 (~2040年)	長期 (~2050年)
みんなで 取り組む 脱炭素	①ゼロカーボンに関する 情報発信(村民)	勉強会・講演会 環境学習・広報		
	②移動の脱炭素化の推進	エコドライブや 乗合いの推進	シェアカー等仕組みの検討	
	③ゼロカーボンに関する 観光客への情報発信	情報発信・教育旅行の コンテンツ化	取組みの充実・認知度向上	
島ぐらし 楽しく 快適に 脱炭素	①省エネ機器・省エネ 建築物への転換推進	家電・業務機器の更新 一部住宅等の省エネ化	更新に合わせた ZEH化の推進	概ねの建物が ZEH化
	②公共施設の省エネ・ 長寿命化の推進	電気使用量の削減	更新に合わせた ZEB化の推進	概ねの施設が ZEB化
	③船舶における脱炭素化 に関する情報収集	省エネ運転の推進 省エネ型船へ買換推進	脱炭素型の次世代 燃料船の導入	概ねの船舶の 次世代燃料船化
	④日々の移動における 脱炭素化の促進	EV導入推進・EVスタンド 設置に関する検討	再エネ由来の EVスタンド整備	概ねの自動車が EV化
	⑤公用車・村営バスの EV化	一部車両に関するEV化	概ねの車両の EV化	—(継続)
自然 パワーで 脱炭素	①公共施設への再生可能 エネルギーの率先導入	施設特性に合わせて 太陽光発電・蓄電池導入	更新に合わせた 導入(ZEB化)	概ねの施設に導入 (ZEB化)
	②住宅・事業所への 太陽光発電の導入支援	情報提供による 導入推進	導入の推進 (ZEH化)	概ねの施設に導入 (ZEH化)
	③太陽光発電設備等の設計・ 施工及びびびがみ体制の強化	島内外事業者への 働きかけ	再エネ施工・メンテナンス体制の運用	
	④太陽光発電所等の再生可能 エネルギー-整備・運用の推進	(仮称)母島太陽光発電所 建設事業の推進	新規再生可能エネ ルギー発電の導入	100%再エネ電力 供給の開始
	⑤再生可能エネルギー-の最新 技術に関する情報収集	情報収集・検討		
ごみも 資源だ 脱炭素	①ごみの減量化	マイボトル利用等促進 ごみ回収のルール周知	廃棄物処理量の減少・高効率な焼却炉へ の更新(燃焼用の燃料使用量減)	
	②プラスチック等の 資源循環	分別回収の手法検討・ 分別の強化	新たな資源回収品目の検討	
	③生ごみ回収の推進	生ごみ回収の検討(父島)		
	④伐採木等の有効活用に関 する情報収集	汚泥・剪定枝の活用等に関する情報収集・検討		
脱炭素型 エコツーで 満喫	①脱炭素型島内交通の 充実	シェアサイクル等の 島内交通の充実	パーソナルモビリティの導入等 島内交通の見直し・仕組みの検討	
	②観光サービス業における 環境配慮型経営の促進	宿泊施設・飲食店における 脱プラスチック推進	環境配慮型経営の体系化・推進	
	③地産地消の促進	島内農産物・水産物の 利用促進、農業・漁業振興	食料自給率の上昇	
守れ BONINの 森と海	①世界自然遺産である 自然環境の保全	自然保全事業の推進		
	②地域連携による 自然保全活動の推進	村民参加の森づくり等、参加型の事業の推進		

計画の推進体制

計画書p.44

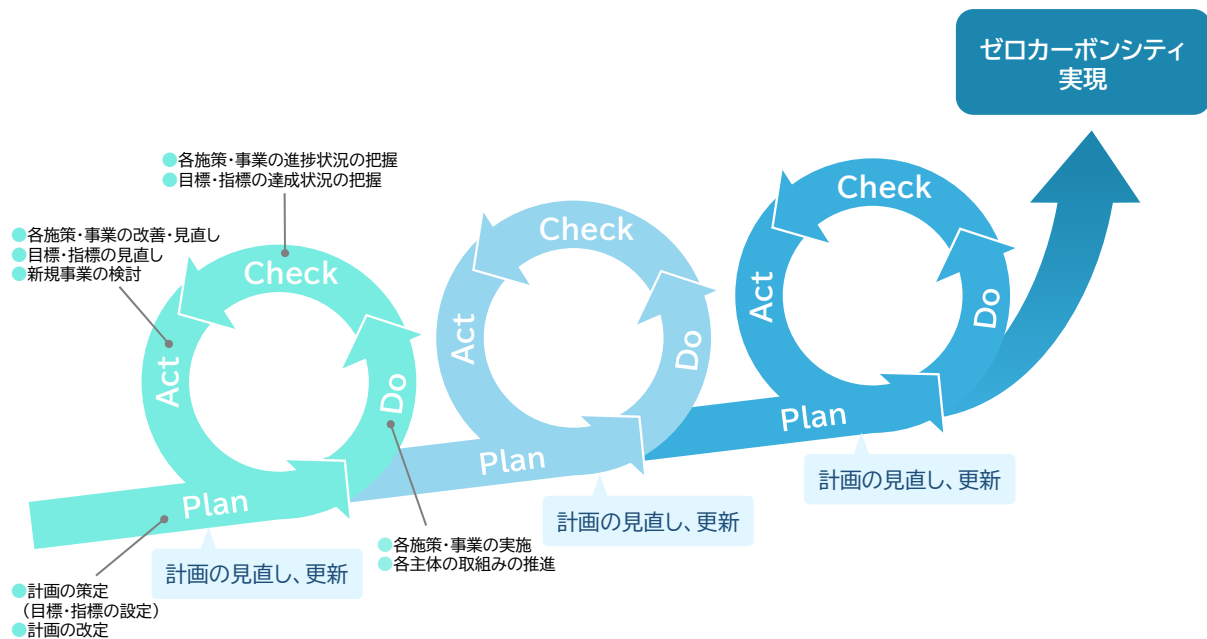
「小笠原村ゼロカーボン推進本部会議(仮称)」及び「家庭・事業所のゼロカーボン対策会議(仮称)」を設置し、本計画の推進を図ります。これらの会議を核とし、村民、事業者、来島者、村、地域団体、関係機関が一体となって取組みを進めていきます。



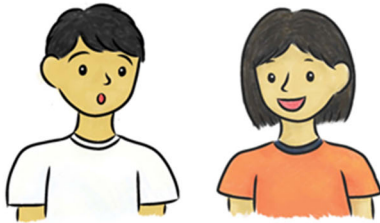
計画の進捗管理

計画書p.45

計画に基づく取組みを着実に実行していくため、以下のPDCAサイクルで進捗管理を行います。



プロローグに登場する人々



マルオとハチコ

父島で暮らす中学生。
環境学習の課題で「小笠原村の温暖化対策の歴史」について
村の大人たちに聞き取り調査中。



一美(40歳)

二児の母。
家計を預かる主婦として、
環境にもお財布にもやさしい
取り組みを楽しみながら日々実践。



二郎(41歳)

一美の夫。島生まれ・島育ち。
家電が好きで、新製品の
省エネ性能は必ずチェック。



三太(35歳)

再エネ発電設備の
メンテナンスを行う電気技師。
島育ちで小笠原の海を
こよなく愛する。
天気予報を眺めながら
波のある日はサーフィンに
繰り出す。



四之助(39歳)

父島クリーンセンター勤務。
島のごみ処理の歴史や
仕組みに詳しい。



五月(62歳)

観光ガイド歴30年以上の
大ベテラン。
世界遺産登録の頃から
観光業の変化を見てきた。



源六(75歳)

長年、小笠原の固有動植物の
研究と外来種駆除などの
自然保護活動に携わる。



小笠原村地球温暖化対策実行計画(区域施策編)

スイッチおがさわライフ ゼロカーボン大作戦【概要版】

発行 小笠原村

発行年月 令和6年3月

編集 小笠原村 環境課

東京都小笠原村父島字西町

04998-2-2270



▲ゼロカーボン大作戦本編は
こちらからCheck!